

「子ども霞が関見学デー」開催!

～なるほど! そうなの? 財務省のしごと～

大臣官房文書課広報室

1. はじめに

「子ども霞が関見学デー」は、各府省庁が業務説明や省内見学などを行うことによって親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、各府省庁の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に、平成11年度から文部科学省(当時は文部省)をはじめとした各府省庁で実施されている。

本年度は、8月18日(水)、19日(木)に実施され、財務省においても午前に①省内見学(各日2回実施)、午後②「なるほど! そうなの? 財務省のしごと」と題した政務三役とのミニ記者会見や税関・造幣局の施設見学などのプログラム、さらに③終日にわたって各省庁をまわるスタンプラリーを用意したところ、両日あわせて772名(引率者含む。うち子ども442名)の参加を得られた。本稿では、両日午後で開催された「なるほど! そうなの? 財務省のしごと」プログラムを中心に、その模様を簡単に紹介させていただきたい。

2. 両日午後の模様

(1) 8月18日(水)

38名(うち子ども20名)の参加を得て開催。省内見学後、記者会見室において古本大臣政務官とのミニ記者会見を行い、その後、東京税関の見学を行った。

ミニ記者会見では、古本政務官から現在の国の財政事情について家計に例えながら、40万円の収入しかないにも関わらず、77万円の支出をしており、多くを借金に頼っているといった大変厳し



古本大臣政務官とのミニ記者会見の様子

い状況にあることや、電車の駅やTシャツなど子どもたちにとって身近な物に例えながら、歳出や歳入面における財務省の仕事の紹介がなされた。子どもたちからは「円高が生活にどのような影響を及ぼすのか」といった本格的な質問が飛び出すなど、思わず古本政務官も驚きの表情を浮かべられる一幕もあった。最初は子どもたちも緊張していたものの、古本政務官の時折冗談を交えながらの説明に、次第に保護者の皆さんも含め笑い声此起彼伏など、和やかな雰囲気であった。

東京税関では、税関の業務紹介ののち、1階ロ



東京税関にて。麻薬探知犬のデモンストレーションの様子

ビーにて麻薬探知犬のデモンストレーションが実施された。麻薬探知犬には、麻薬の入った貨物をひっかくしぐさで知らせるアグレッシブ・ドッグと座るしぐさで知らせるパッシブ・ドッグの2種類がいる。実際に成田空港や羽田空港で活躍している麻薬探知犬が自分たちの目の前で麻薬の臭いを嗅ぎわける姿に、子どもたちから大きな拍手が送られた。デモの終わりには麻薬探知犬と一緒に写真撮影をすることができ、楽しい思い出となったことだろう。その後、5階から大井埠頭を眺め、対岸のコンテナ貨物の積みみや積卸し作業を見学し、「情報ひろば」へ移動。ここでは税関の歴史や役割などを楽しみながら学べる空間になっている。税関の仕事を立て的に学べる映像を見たり、カスタム君（税関イメージキャラクター）のスタンプを押したり、税関職員に積極的に質問するなどして、税関の仕事について理解を深めた。

(2) 8月19日 (木)

44名（うち子ども26名）の参加を得て開催。記者会見室において野田大臣とのミニ記者会見を行い、省内見学後、造幣局東京支局の見学を行った。

ミニ記者会見では、子どもたちから「大臣になって最初にやりたいと思った仕事は何か」、「大臣の仕事をしながらいま頃思うことは何か」など多くの質問が出た。大臣からは、「いまは借金を作って社会福祉を賄ったり、道路整備をして経済活動に繋げたりしているが、借金を返すのは皆さんや、これから生まれてくる人たちになる。いまさえ良ければいいと言うのではなく、将来世代のことも考えて財政運営をしていくことが大切。借金を返していく道筋を作っていきたい」「いまはお金がないときなので、限られたお金を有効に使うために優先順位を考えて判断しなければならないが、最終責任者であるのでその判断が正しいかどうか、いつもギリギリまで考えている」など、子どもたちに対してゆっくり語りかけるように回答



野田大臣とのミニ記者会見の様子



造幣局東京支局にて。七宝体験の様子

がなされた。テレビ局など報道陣も並ぶ中で、普段、直接話す機会のない大臣との会見を終え、子どもたちは満足そうな様子であった。

造幣局東京支局では、造幣局の業務紹介ののち、七宝体験が実施され、ミミズクのペンダントに釉薬（ゆうやく）を盛る作業を体験した。綺麗に仕上げるにはこの釉薬を、①目や口など細かい部分から盛る、②少しずつ平らに盛る、③製品全体に多めに盛る、④はみ出さないように盛る、などのコツが必要であり、また、赤・緑・灰色の3色の釉薬を使用する際には、①絵の具のように色を混ぜることができない、②色を替える時は必ず筆を洗う、などのルールがあることから、子どもたちは皆、真剣な表情で職員のアドバイスを聞きながら釉薬盛りの作業に取り組んでいた。700℃の電気炉で3分間焼成して色鮮やかに仕上がったペンダントを手にした時には、皆一様に喜びの表情を

夏休み企画

「家族による職場訪問」開催！

大臣官房秘書課
大臣官房文書課広報室

8月23日（月）と25日（水）の2日間、財務省職員の家族に向けた夏休み企画として、「家族による職場訪問」が開催された。

この企画は、財務省に勤務する職員の子どもや家族を職場に招き、職員の働く姿を見てもらう試みであるが、これは、本年4月19日にまとめられた「財務省が変わるための50の提言」（<http://www.mof.go.jp/singikai/mofpt/mofpt.htm>）を受け、今回初めて実施されたものであり、両日あわせて109名（41家族）の参加があった。

提言については、既にファイナンス6、7月号で紹介されており詳細は参照願いたい。本企画は「提言35：家族による職場訪問を実施する」を受け、子どもたちの夏休み期間に実施し、さらに「ワーク・ライフ・バランス」の推進を念頭に、職員の休暇取得促進につなげることも目指したものである。

家族の職場訪問は12時からということもあり、午前中は休暇を取得し午後から家族と一緒に出勤する



旧大蔵省看板見学の様子

職員の姿や、昼食時間にあわせて家族が来庁し食堂で一緒に食事をする姿が見受けられたほか、昼食後には、普段勤務している職場を自ら家族に案内してまわる職員の姿があちこちで見受けられた。当日は4階講堂も開放され、壁面に掲げられた歴代大臣の肖像写真に見入る家族の姿もあった。

その後、広報室による財務省の業務説明と省内見学が実施され、大臣室や副大臣室をはじめ、省内各所を見学した。記者会見室では、子どもたちが順番に大臣の会見席に座って記念撮影をしたり、会見用マイクを使って話してみたりと、大臣気分を味わい満足そうな様子であった。

家族の方々には、職員が働いている財務省がどういったところか、実際に訪問することで知っていたく機会になったとともに、家族間でのコミュニケーションや絆を一層深めていただく良い機会になったと思われる。



記者会見室の様子

浮かべていた。

その後、プルーフ貨幣（記念硬貨等の一般流通を目的としない収集用として、表面に光沢を持たせ模様を浮き出させた貨幣）と勲章の製造工場を見学した。勲章の製造工場では、銀の材料版1ミリ平方メートルに100～200トンの力で勲章の模様が圧写される様子を見たり、実際に模様の形にそって切り抜かれたものを手にしたりした。最後に、記念硬貨や勲章のほか、オリンピック入賞メダルや国民栄誉賞盾などが展示されている博物館を見学。金メッキが施されたきらびやかな勲章など普段見ることのできない展示品に、子どもた

ちだけでなく、保護者の方々も高い関心を示されていた。このように参加した皆さんはそれぞれ楽しい見学時間を過ごしたように見受けられた。

3. その他

両日午前中に実施した省内見学では、大臣室や副大臣室、記者会見室のほか、省内各階を回った。また、東門広報スペースにおいて、財務省と国税庁のスタンプを用意しスタンプラリーを実施した。連日の猛暑にも関わらず、各省庁のスタンプを集めようと、入れ替わり立ち替わり大勢の親子連れで賑わった。